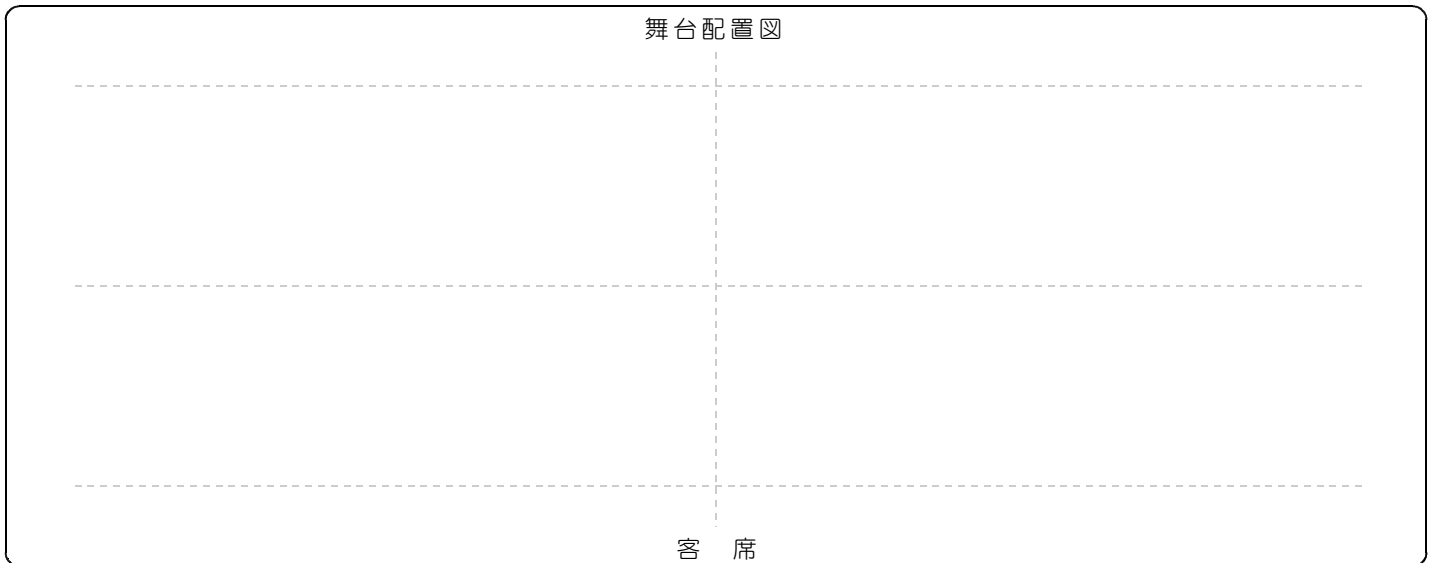


No.	<b>金 欄</b>	演奏者数	演奏時間
-----	------------	------	------



表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座 奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

<b>調絃表</b>	ピッチ A=44		編成：1箏								2箏			
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾	
1 箏	<b>D</b>	<b>G</b>	<b>A</b>	<b>C</b>	<b>D</b>	<b>D#</b>	<b>G</b>	<b>A</b>	<b>C</b>	<b>D</b>	<b>D#</b>	<b>G</b>	<b>A</b>	平より四九一音↑ 一は五の乙(D)
2 箏	1 箏と同調絃													

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1984年 委嘱者 一 構成 箏 1・11 時間 6分 出版楽譜 ミュージックエス

解説 金欄というと、誰しも“金欄緞子の帯しめながら・・・”というちょっとしたもの悲しいような、美しい童謡の「花嫁人形」を想い浮かべることでしょう。この曲はその童謡をもとにしたものではないのですが、箏の音は、錦に金糸を浮きあがらせた金欄の華やかな美しさと融けあうにはぴったりのようです。そして金欄緞子の花嫁姿の優美さは、いつの時代にも若い女性の夢ではないでしょうか。1984年12月作曲。〔作曲者〕 収録媒体 一